

業況 DI 値は足踏み、先行きは横ばいの見方が続く

鈴鹿商工会議所
中小企業相談所

(総括)

鈴鹿商工会議所では、鈴鹿地域の企業の業況と今後の見通し、問題点等を把握するため、会員企業を対象に毎年1月と7月に景気動向調査を行っている。このたび平成30年上期(1月～6月期)の調査結果がまとまった。

全体の景気動向としては、前回調査(平成29年7月～12月期)と比較すると、景気の現状と今後の見通しが悪化。前回調査時まで景況は持ち直しの動きが見られたが、一部業種を除き、先行きは不透明な状況が続くという結果となった。

全体DI値において、前期調査時に比べ、現状DI値は13.3ポイント、見通しDI値も8.2ポイントと共に悪化した。業種別のDI値を見ると、卸売業、飲食業で改善が見られたものの、それ以外の業種は悪化という結果であった。

前回調査時は、政府の推進している景気浮揚策の効果が地方の中小企業・小規模事業者に少しずつ波及しつつありDI値の改善が見られ、中小企業の景況感は動きの鈍さがあるものの総じて緩やかな回復が続いていたが、今回の調査では多くの業種で前回調査時に比べ悪化している。これは人手不足や競争激化、消費者の低価格志向、原材料の価格上昇分の価格転嫁など先行きへの懸念材料があり、慎重な見方があると思われ、今後の見通しは横ばいとなるものと推察される。

(対象 1,100社 回答企業 374社、回答率 34.0%)

DI 値 (ディフュージョン・インデックス)

DIとは、景気動向を示す指標で、調査時点における企業家の経済行動(強気や弱気など)を知るためのものであり、景気動向を客観的に判断する資料として幅広く使用されているもので、特に言及がない限り、「増加」「好転」したとする企業から、「減少」「悪化」したとする企業割合を差引いた値である。

●現状の景気について (図-1・3 参照)

「良い」「やや良い」は19.7%(前回27.3%:前年同期19.0%)、「やや悪い」「悪い」は35.5%(前回29.8%:前年同期37.9%)となった。

景気動向を示すDI値は、△15.8(前回△2.5:前年同期△18.9)と前回より13.3ポイント悪化し、前年同期より3.1ポイント改善している。

業種別では、製造業DI値△14.8(前回2.5:前年同期△4.3)、卸売業DI値△26.3(前回△27.3:前年同期△64.3)、小売業DI値△47.8(前回△40.0:前年同期△52.4)、建設業DI値△4.1(前回13.1:前年同期△10.5)、飲食業DI値△21.8(前年△31.3:前年同期△10.7)、サービス業DI値△7.7(前回6.0:前年同期△23.4)となった。

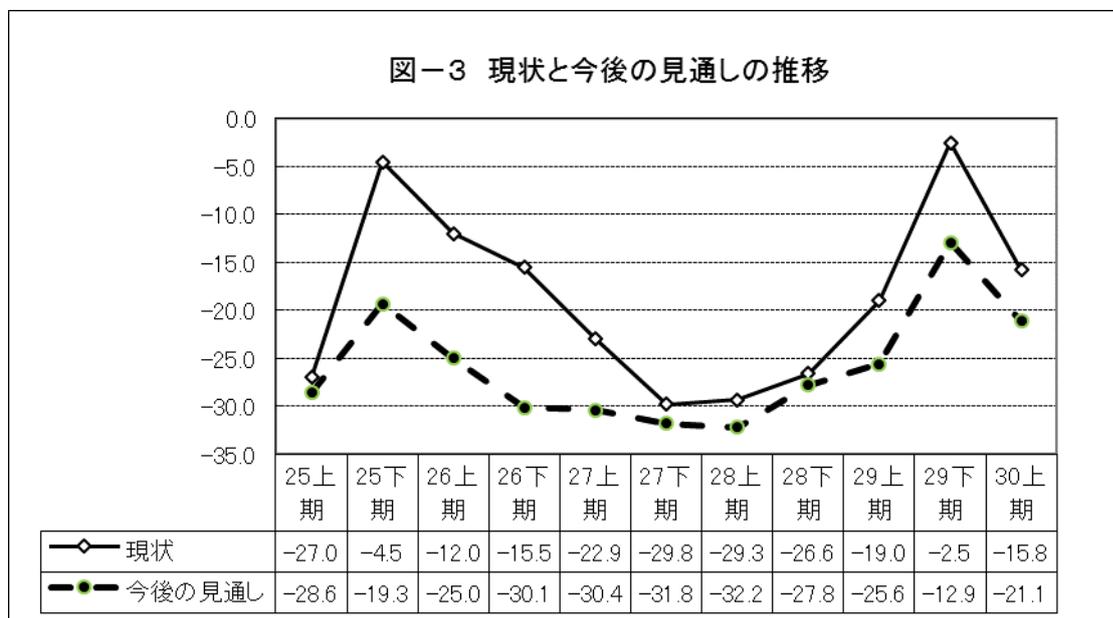
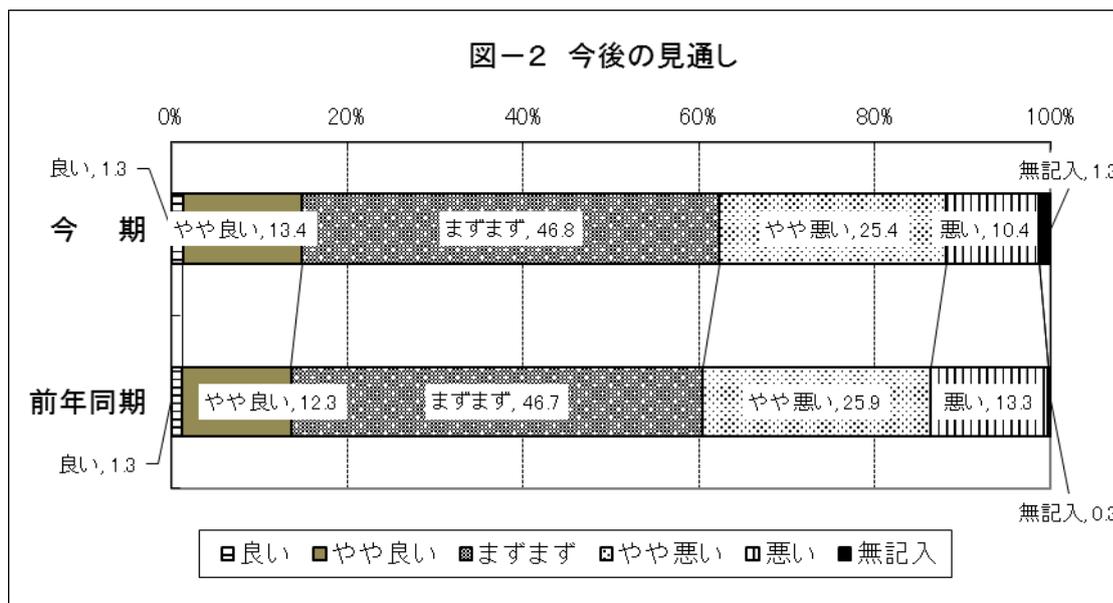
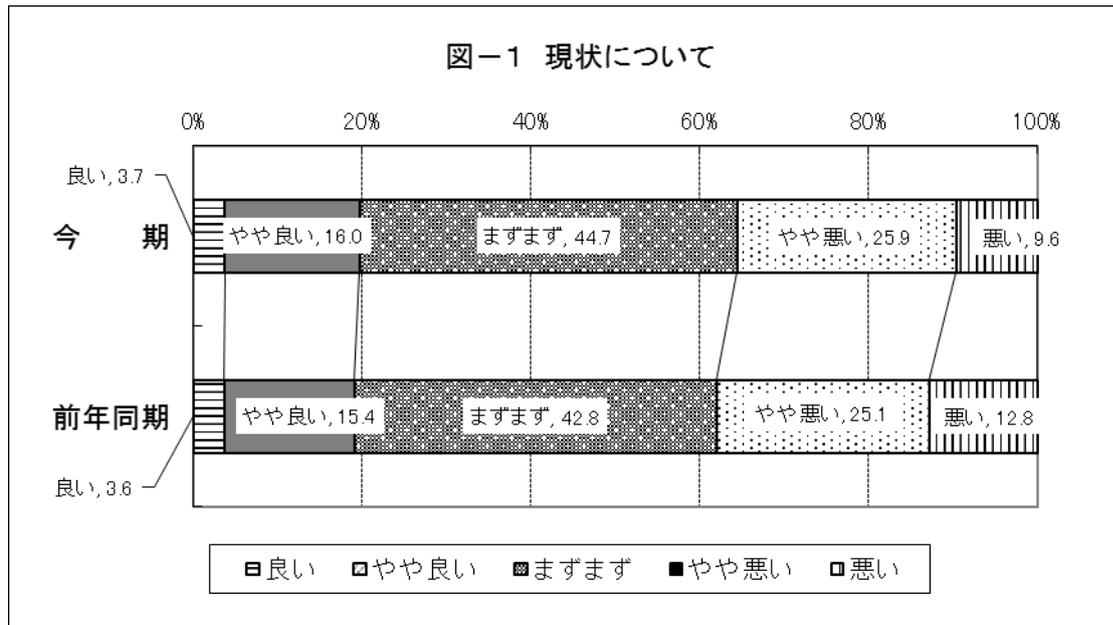
●今後の景気見通しについて (図-2・3 参照)

「良い」「やや良い」は、14.7%(前回19.7%:前年同期13.6%)、「やや悪い」「悪い」は35.8%(前回32.6%:前年同期39.2%)となった。

DI値は、△21.1(前回△12.9:前年同期△25.6)と前回より8.2ポイントの悪化し、前年同期より4.5ポイント改善している。

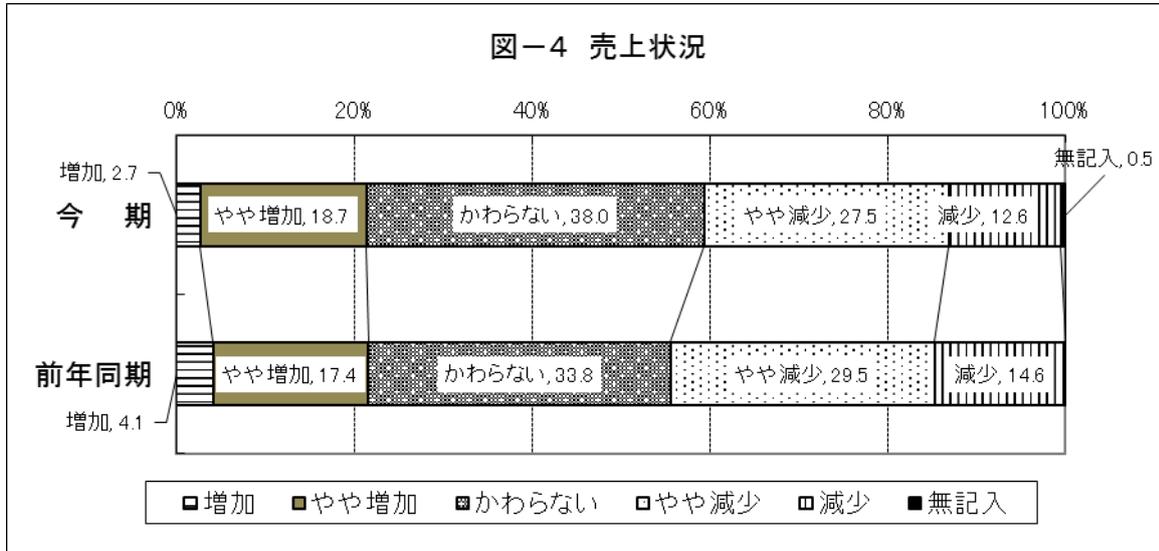
業種別では、製造業DI値△15.7(前回△10.7:前年同期△9.4)、卸売業DI値△15.7(前回△27.3:前年同期△64.3)、小売業DI値△54.4(前回△30.0:前年同期

△45.9)、建設業DI値△15.6(前回△4.7:前年同期△26.9)、飲食業DI値△13.0(前回△43.8:前年同期△17.8)、サービス業DI値△23.1(前回△12.0:前年同期△26.6)となった。



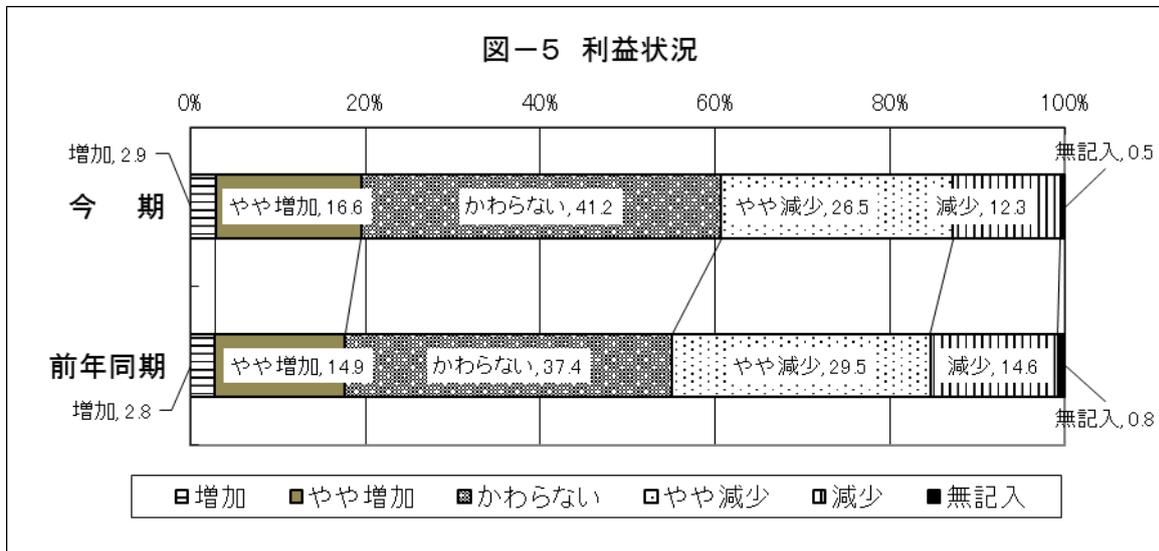
●売上状況について（図－4 参照）

「増加」「やや増加」は 21.4%（前回 32.1%：前年同期 21.5%）、「やや減少」「減少」は 40.1%（前回 34.0%：前年同期 44.1%）となった。DI 値は△18.7（前回△1.9：前年同期△22.6）と前回より 16.8 ポイント悪化し、前年同期より 3.9 ポイント改善している。



●利益状況について（図－5 参照）

「増加」「やや増加」は 19.5%（前回 21.6%：前年同期 17.7%）、「やや減少」「減少」は 38.8%（前回 38.3%：前年同期 44.1%）となった。DI 値は△19.3（前回△16.7：前年同期△26.4）と前回より 2.6 ポイント悪化し、前年同期より 7.1 ポイント改善している。



経営上の問題点(上位3位)

(%)

		第1位	第2位	第3位
業 種 別	製造業	売上・受注の停滞減少 (40.0)	人手不足 (33.7)	設備店舗の狭小老朽化 (27.4)
	卸売業	売上・受注の停滞減少 (63.2)	競争激化 (36.8)	人材育成 原材料高及び不足等 (21.1)
	小売業	売上・受注の停滞減少 (58.7)	競争激化 (54.3)	製品・商品単価の下落 設備店舗の狭小老朽化 (15.2)
	建設業	人手不足 (69.1)	人材育成 (37.4)	売上・受注の停滞減少 (30.9)
	飲食業	人手不足 (52.2)	原材料高及び不足 (47.8)	人件費の増加 人件費以外の経費増加 (21.7)
	サービス業	売上・受注の停滞減少 (32.7)	人手不足 (28.8)	競争激化 (21.2)
	交通運輸業	人手不足 (80.0)	人件費の増加 人件費以外の経費の増加 (40.0)	人材育成 (20.0)
	その他	売上・受注の停滞減少 (54.5)	人件費の増加 (36.4)	人手不足 人材育成 (27.3)
総合	人手不足 (43.0)	売上・受注の停滞減少 (38.0)	人材育成 (23.5)	
前年同期	売上・受注の停滞減少 (42.1)	人手不足 (32.6)	競争激化 (23.6)	

地場産業—自動車関連

●現状の業況と今後の業況見通しについて

a) 現状の業況について

「良い」「やや良い」は 20.6% (前回 29.4% : 前年同期 31.5%)、「やや悪い」「悪い」は 50.0% (前回 38.2% : 前年同期 34.3%) となった。DI 値は $\Delta 29.4$ (前回 $\Delta 8.8$: 前年同期 $\Delta 2.8$) と前回より 20.6 ポイント、前年同期より 26.6 ポイント悪化している。

b) 今後の業況見通しについて

「良い」「やや良い」は 17.6% (前回 23.5% : 前年同期 22.9%)、「やや悪い」「悪い」は 44.1% (前回 32.3% : 前年同期 28.6%) となった。DI 値は $\Delta 26.5$ (前回 $\Delta 8.8$: 前年同期 $\Delta 5.7$) と前回より 17.7 ポイント、前年同期より 20.8 ポイント悪化している。

●売上状況と今後の見通しについて

a) 売上状況について

「増加」「やや増加」は 29.4% (前回 41.2% : 前年同期 34.3%)、「やや減少」「減少」は 47.0% (前回 41.2% : 前年同期 37.1%) となった。DI 値は $\Delta 17.6$ (前回 0.0 : 前年同期 $\Delta 2.8$) と前回より 17.6 ポイント、前年同期より 14.8 ポイント悪化している。

b) 売上の見通しについて

「増加」「やや増加」は 26.5% (前回 32.4% : 前年同期 22.9%)、「やや減少」「減少」は 35.2% (前回 32.3% : 前年同期 22.9%) となった。DI 値は $\Delta 8.7$ (前回 $\Delta 0.1$: 前年同期 0.0) と前回と比べ、8.6 ポイント、前年同期より 8.7 ポイント悪化している。

●利益状況について

「増加」「やや増加」は 23.5% (前回 29.4% : 前年同期 28.6%)、「やや減少」「減少」は 41.2% (前回 50.0% : 前年同期 34.3%) となった。DI 値は $\Delta 17.7$ (前回 $\Delta 20.6$: 前年同期 $\Delta 5.7$) と前回より 2.9 ポイント改善し、前年同期より 12.0 ポイント悪化している。

■お問い合わせ

鈴鹿商工会議所中小企業相談所

TEL : 0 5 9 - 3 8 2 - 3 2 2 2

FAX : 0 5 9 - 3 8 3 - 7 6 6 7